

「西部警察パートⅢ」 仙台爆破計画型

全長:約 1m

重量:138kg

起爆装置(信管)
高濃縮ウラン 235(90%)
空 隙
高濃縮ウラン 235(90%)
時限爆弾装置 (タイマー方式)

上記のような「**ガンバレル型**」と呼ばれるのが、**広島型原子爆弾**にも見られた、**核爆弾の基本原理**です。

実際には、いずれも**円筒型**になっておりまして、**頭部の起爆装置(信管)**の作動により**瞬間的に 2つの高濃縮ウランを合体**させて臨界点以上に到達させます。

即ちこれにより**核分裂反応**が進行、**広範囲にわたり放射能による被害(物語の中では、半径 20km と予測している)**は免れない、という事態に陥ります。

また**濃縮ウランの濃度**については、「**仙台爆破計画**」によると例えば**原発用等の一般向けでは 3%程度**に薄められているものの、この時盗まれたのは**実験用の 90%以上、それも 20kg程度**だったとされています。

併せて使用された**爆薬は TNT 火薬**で、これも**広島型と共通**していたと言われております。

起爆装置は**時限爆弾方式**を活用し、犯人グループによる爆発設定時間は、**16:00**でした。

